

作家 西川 司 さん 講演会 大変勉強になりました！！

6月30日（土）10:00より遺愛学院のホワイトハウスで、作家の西川 司さん講演会を開催しました。50人を超える保護者が来て下さり、会場は一杯でした。西川さんは南茅部の尾札部出身。大学中退後、アメリカ・西アジアなど海外を放浪。帰国後、放送作家として『まんが日本昔ばなし』『NHKおかあさんといっしょのぐーちょコランタン』などに関り、今は小説家として活躍しています。主な著書に『向日葵のかっちゃん』『異邦の仔』『刑事の殺意』などの刑事シリーズがあります。

西川さんは、遺愛に毎週2回守衛さんとしていらして下さっています。

8月23日（西川さんの60歳の誕生日）に函館芸術ホールで自伝的小説である『向日葵のかっちゃん』が舞台化されることもあって、その前に、ぜひ遺愛の保護者向けに講演していただければと思い、お願いしたところ快諾して下さい、実現しました。

西川さんはアスペルガーという発達障害をもって生まれ、小学校の低学年の時には「あいうえお」も書けない、「1+1」がなぜ2になるのか不思議でわからず、『ひまわり学級』にいたそうです。周りの人々（親にも）に理解されず、苦しい子ども時代をおくった西川さんでしたが、小学5年生になる時に、ペルーの日本人学校から戻ってきた森田先生との出会いにより、初めて大人に褒められ、やる気が出て、勉強も苦にならなくなったこと。その時に教えられた方法、声に出して、読んで、何度も書くことが力になることに気づいたそうです。大人になっても放送作家として一人前になるために、倉本聰さんのシナリオを何度も声に出し、読んで、書いて、そのテクニックを学んだそうです。

30歳になる一人娘がいらっしゃるそうですが、子どもの時の教育方針は「毎日、本の読み聞かせ」「やりたいことをやらせる！」「自分で決めさせる（これは今回の講演では触れていませんでしたが、西川さんの文章の中にありました。）」その成果か、中学を卒業すると、自分で手続きをして、アイルランドの高校へ行き、カナダの高校へ転校し、アメリカの大学を卒業し、ドイツの会社に勤めたそうです。西川さんによるとホテルを紹介する会社『トリバゴ』日本支社は、娘さんが立ちあげたそうです。

これらの経験から、西川さんは悪いところをなおす教育ではなく、良いところを伸ばす教育の大切さを強調し、子どもを伸ばすには、子どものやりたい

ことをやらせる、子どもが自分で好きなことを見つけることが大事で、見つければ必死に勉強すると語っていました。示唆に富むお話で、とても勉強になりました。



2018年7月2日（月）